

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170503486), 法人名 ((株)ゆうらく), 事業所名 (高齢者グループホーム「遊楽館」平岡), 所在地 (札幌市清田区平岡4条1丁目12-4), 自己評価作成日 (平成28年10月20日), 評価結果市町村受理日 (平成29年1月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうらくとして3年ほど前から花や野菜等に力を入れており今年度はそれが多くの職員に浸透し形になってきたと感じている。今年度は職員の退職も3名と少なく、安定した環境を入居者様に提供できているのではないかと。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2014\_022\_kani=tr ue&JigyosyoCd=0170503486-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年11月4日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅街に位置しながらも、周辺には大型スーパーや郵便局、飲食店、コンビニなどが立ち並び利便性の良い環境にある2ユニットの事業所である。開設から12年目を迎えており、理念と運営方針の具現化に向けて、職員は利用者の思いや個性を重要視したケアサービスに取り組んでいる。管理者は、町内会の役員として町内会活動に参加協力しながら、利用者が地域で暮らし易い環境作りに努めている。また、清田区のグループホーム管理者連絡会の代表としても活躍しており、行政との協働関係を構築し情報を共有する事で、利用者の課題解決に向けて取り組んでいる。職員は月に1度、外出レクリエーションを企画し、公園や樹芸センターなどに出かけ、利用者が気分転換を図れる様に支援している。日常的には、敷地内の花壇、畑などの手入れや散歩、買い物など戸外に出て楽しんでいる。屋内のレクリエーションでは、ボランティアの指導の下に、利用者は生け花を習い楽しみ、玄関に作品を飾る事で、利用者は勿論、来訪者までも心が和んでいる。事業所は既に看取りを経験しており、終末期の対応では、家族や医療関係者などと連携を図りながらチームで支援し、家族との信頼を深めている。利用者が終の棲家として安心して暮らせる場となる様に、職員が一丸となってケアサービスに努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement criteria), 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement criteria). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきながらグループホームという施設をしっかりと理解し実践を行っている	系列グループホーム共通の理念と目標を具体化した運営方針は、パンフレットや玄関に掲示しており、職員は全てのケアサービスの根幹として意識付けしている。月に1度は会長が来訪し、ケアに対する思いやビジョンを職員に話し共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の役員として地域と関わりを持っている。又、今年度からは地域の児童館と夏祭り等で交流している。	管理者は町内会の役員として、地域活動に参加している。町内会の夏祭りには利用者が参加し、事業所主催の夏祭りやハロウィンには町内の「元気っ子クラブ」の子供達が来訪するなど交流を図っている。中学生の職場実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にも行事への参加等を促し、参加頂けた方に少しでも認知症を理解して頂けるよう積極的にコミュニケーションを取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二か月に一回開催し施設の現状や問題点についてオープンに伝えている。	運営推進会議は2か月毎に開催している。包括支援センター職員や民生委員、代表の家族の参加を得て、運営状況の報告や避難訓練、ターミナルケアについて話し合われている。	運営推進会議は、利用者が地域で快適に暮らす為の会議である事を家族や地域住民に理解して頂き、参加者の拡大を促す取り組みに期待する。関心を呼ぶ議題や日程の調整など、参加し易い環境作りに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多くの交流はない。	管理者は、清田区のグループホーム管理者連絡会の代表を務めるなど行政との関わりが深く、担当とは常に事業所の実情やケアサービスの取り組みについて相談や情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を含めた虐待の研修等を社内で行い防止に努めており、各ユニット毎会議の際に都度確認を行っている	運営法人全体で合同研修を開催し、身体拘束及び虐待防止について学び、職員は理解を深めている。外部研修にも参加し、毎月のカンファレンスでも職員同士話し合い、情報共有に努めている。玄関は夜間のみ防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い職員の理解力・スキルアップの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは学ぶ場があるが全職員には多くは行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんだが入居前の見学時や入居準備中から疑問や不安が無くなるよう相互理解に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等の集まり以外にも面会時等に細かな情報共有を行う事で要望を伝えやすい関係づくりに努めている	家族の来訪時には、話し易い雰囲気作りに努め、意見や要望、苦情などを聞き取り、運営に反映させている。3ヵ月毎のケアプランの見直し時にも思いを汲み取り、要望に応えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議以外にもゆらぐ全施設を対象にした集まりの場を設け意見交換をし、会社の改善に努めている	運営法人全体で行われる会議や毎月のカンファレンスにて、職員の意見や要望、提案などを聞き取り運営に反映させている。施設費の使い方やシフト、休日の希望など、管理者は就業環境の整備に努めている。定期的に個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し職員の評価を明確にする事で目標を作り、給与改善・環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望があった場合はもちろん個々に適した研修があった場合は積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各区の研修会等で交流する機会はあるが多くはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の際には事前にご家族様から情報を得てご本人が安心感を持てるような対応を心がけている。(疑問や不安を自ら訴える事ができる環境を用意する)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安を出来る限り解消し、施設に対するイメージや出来る事と出来ない事をはっきりとお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用しているサービスが受けられる様な支援はもちろんだがデイサービス等入居後に利用できないサービスはデイケアの利用といった代替えを提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの形態を活かし馴染みの関係を日常生活の支援から作っていけるよう工夫している。共同作業が出来る様調理などにも積極的に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に細かな情報共有を行い、また家族様と職員の関係も行事参加等を通して築けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との関わりが切れる事が無いように施設内の面会だけでなく、ご家族様の了解の元で友人との外出等も自由に行って頂いている。	事業所は利用者個々の希望に沿える様に支援している。職員は、車椅子対応の利用者が外出の際は、家族の要望に応じて目的地まで送り届けている。家族の協力の下に墓参りや美容室に出かけている。友人と共に外出も楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ居室から出てきて頂けるようにレクや手伝いをお願いし、他入居者様も巻き込めるような支援を行っている。職員も含め顔なじみになれるよう積極的に支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等があれば随時対応している。退去後に同様のキーパーソン様から入居相談を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の言葉や家族の希望からアセスメントを行い、その方らしい生活が営めるようなケアプランを作成している	センター方式のアセスメントを基に、利用者の現状に即したケアとなるように、家族の要望を伺いながら、担当職員を中心に話し合い利用者の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限り詳しくご家族様や病院などから情報を頂き、入居時から安心な生活が送れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子記録、申し送りノート等を活用しADLの維持が出来る様出来ることを見極め、それが実行できる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜、ご家族様と情報交換を行いご本人にとって最優先に行うべき支援を介護計画に反映させている。	利用者個々に担当職員を配置している。介護計画は利用者、家族の意向を基に、3か月毎のアセスメント、モニタリングを行い、担当職員と介護支援専門員が中心となり纏め、カンファレンスで全職員と話し合い作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の具現化に活かしている	記録はワイズマンを導入し、記録記入の簡略化を目指しながらも必要な情報を共有しやすくなるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に可能な限りお答えできる様努めている。今年度では看取りはもちろん個別のお墓参りの希望等にも柔軟に対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり多くは活かしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前にかかっていた病院を希望される場合は柔軟に対応を行っているが、それ以外の場合は提携の往診医を紹介させて頂き、24時間で医師と連携が取れる環境を作っている。	殆どの利用者は協力医療機関である訪問医をかかりつけ医とし、月2回受診している。入居前からのかかりつけ医への受診を希望する利用者には職員が支援している。週1回、訪問看護師が来訪し、健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しているが週に一度定期的な報告を行い、疑問があれば都度相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院中から定期的に面会に伺うことで退院時にスムーズな受け入れが出来る様にしている。退院時は病院から十分な情報を頂き退院後の適切なケアに活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の体調の変化を医師と共有し、早い段階でご家族様と終末の在り方について相談し必要に応じて医師を含めた三者での話し合いの場を設けている。	「重度化した場合の対応指針」を整備し、入居時には本人、家族に説明し同意を得ている。事業所は既に看取りを経験しており、状態変化時には、再度医師や看護師、家族、職員と何度も話し合い、本人、家族が望む環境で終末期を迎えられる様に支援している。職員の研修も行き、チームでの支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成や事故が起きた後の振り返り等を行う事で再発した際の迅速な対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。今後は水害や地震時の訓練にも力を入れていきたい。	消防署指導の下に、8月夜間想定で火災避難訓練を実施している。次回は冬を予定している。自然災害時対応の訓練には至っていない。また、地域住民の参加協力も得ていない。備蓄品は確保している。	想定外の自然災害が各地で起きている現状では、自然災害時に向けての訓練は必要であるので、火災訓練に加えて定期的にも実施する事を期待する。更に、地域住民に参加協力を呼びかけ体制を整備する事も期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けを意識しながらも、その方との関係性から適した声掛けを行っている。	管理者は、利用者の人格や尊厳を損なわない様に、言葉使いや態度に気をつける様に職員に指導している。個人情報管理は適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様本位な生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に出来る限り役割を持って生活して頂けるように職員都合で業務を進めてしまわない様注意しているが、まだ職員都合な場面も見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の支援はもちろんだが外出時等は特に一緒に選ぶなどその方の希望に沿って楽しい気持ちになって頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の心身の状態を見極め食事の下ごしらえや配膳、味付け等も手伝って頂いているがすべての職員が理解し出来ているとは言い難い。	献立や食材の購入は業者に委託しているが、行事食や誕生日食には利用者の希望を取り入れて職員が調理している。チラシなど見て、寿司やピザなどを出前するなど、日常の食事バラエティに富み楽しんでいる。畑で採れたトマトやカブ、とうきびも食卓を賑わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や塩分量等はもちろん肉や魚の好みにも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立されている方には声掛けをし介助が必要な場合は適宜お手伝いをさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には時間での誘導を行っている。リハビリパンツを使用している方も皮膚状態等によっては布パンツを使用し改善に取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、定期的な声掛けにより出来る限りトイレでの自立した排泄が行える様に支援している。パットなど使用しながら、布パンツでの生活を支援しており、衛生用品の使用についても十分検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に食物繊維の多い食材を選んでいる。下痢になりすぎないように乳製品の取りすぎにも十分注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められているが、入居者様や家族の要望に合わせて夜に入浴が出来る様工夫している。	入浴は週2回以上を目安に、体調に配慮しながら支援している。入浴時間は定めているが、夜間入浴を希望する利用者には柔軟に対応し楽しんで頂いている。入浴を苦手とする利用者には、事前にホワイトボードに入浴日時を明記するなど、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特段決めておらずその方の生活リズムに合わせているが昼夜逆転にならないよう必要時は声掛け、誘導し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性・副作用の危険等は研修を通して伝えているが、まだまだ職員の理解は足りていないと感じる事もあり、日々職員間での共通理解が必要と思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や調理等、その方にあつた支援を行っている。今年度は生け花等を定期的に行い入居者様の生活が少しでも豊かになるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出を希望される場合は出来るだけ実現するよう業務時間を変更するなどしている。基本的に家族や友人との外出や外泊は自由であり、外出の際は入居者様の注意すべき情報を伝え安全に出かけて頂いている	職員は、月に1度は戸外に出る計画を立て、閉じこもらない生活を支援している。利用者は公園や樹芸センターなどに出かけ楽しんでいる。散歩や買い物には職員が同行しているが、家族の協力の下に、外食や外泊などの個別対応にも取り組み、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況に応じ家族に協力して頂きながら金銭を持っていただく場合もある。その際居室での管理によるリスク等についてご家族様に十分に理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に個人電話を置くことも可能になっているが、電話を掛けたいと希望があった際は支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行時の導線が確保できる様、物の配置には注意をしている。玄関前に景観として花を植え施設として大切にしている。また入居者様と生け花を定期的に行い入口に飾る事で外部の方にも気持ちの良い空間づくりに努めている。	玄関前の花壇や玄関に飾られた花やぬいぐるみ、インテリアの暖炉が事業所の温かみを感じさせてくれる。各ユニットの共有空間は全て広く、ゆったりとしており、居間に隣接している和室には大きな窓が設えていて明るく眺めが良い。トイレには男性用便器を設置し、洗面台は車椅子対応になっているなど、自立に向けた配慮が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二階のエレベーター前にテーブルを用意したり、工夫はしているがあまり利用される方はいない。一人になりたい場合は居室が多いと思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から居室内の家具の配置等を伝えながら生活しやすい環境作りをお手伝いさせて頂いている。	居室には馴染みの家具やテレビ、冷蔵庫、仏壇などを持ち込み、趣味の飾り物や家族写真なども飾られ、その人らしく居心地の良い空間になっている。寝具もベット使用や床使用など、利用者の状況に合わせて環境を整える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り調理など残されている機能を発揮できる様支援を行っている。		